

こうりん



イギリスの古い建物と美しい花々

内 容

- ・ 秋季彼岸法要のご案内
- ・ 本尊様の修理出来る
- ・ 説相箱その2
- ・ 幸せになりたい
- ・ 泣きたいときに墓参り
- ・ つくってみよう精進料理
- ・ お知らせ

よしあしの うつつる心の
水鏡 よくよくみればわが姿なり

お盆はいかがお過ごしでしたか？
久しぶりに故郷にもどられたご家族と楽しい一時を過ごされたこと
と思います。ご先祖様も帰ってこ
られてその輪の中にいらつしゃつ
たことでしょう。一方、お盆は地獄
の釜の蓋が開く時でもありました。
生きている私たちが功德を積んで
苦界にいる生き物を救う時です。
どんな功德が積めたのか自省して
みたいものです。

檀信徒各位

秋季彼岸法要御案内

聖名、酷暑の日々もようやく終わり、朝夕に秋の気配を感じる今日この頃です。

早いもので今月は秋のお彼岸です。恒例によりまして下記の通り彼岸法要を勤めます。御多忙の処とは存じますが、お繰り合わせ、御参詣下さいますよう御案内申し上げます。

合掌

平成 17 年 9 月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁拝

※日 時 9 月 23 日（秋分の日）

午後 1 時より御回向 引続き法話

※布教師 佐賀県嬉野町宗運寺 坂本 隆志 上人

※御回向料 位牌型に回向される戒名と施主名を記入し
複数記入されても結構です。

一霊に付き金 1,000 円以上添えてご志納下さい。

※お供米、お供米料 お供米袋に入れて随意ご奉納下さい。
本尊様のお供え、お花代等にさせて戴きます。

お願い

墓地へご参詣のみなさまへ 枯れたお花などは墓地奥の焼却炉へ
塵かごがあります。

納骨堂へご参詣の皆様へ お供えはお持ち帰り下さい。



傷んだお顔



優しく美しいお顔に

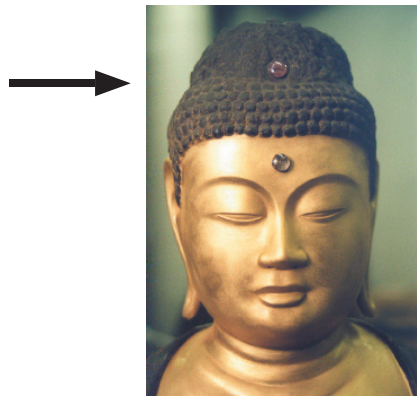


修復まえ



本尊様の修復ができました。

昨年 9 月より、京都の美術院（旧国宝修理所）にて修復されていまして、国重要文化財の阿弥陀如来様が帰ってこられました。これからも大切にお守りしていこうと思います。



説相箱

その 2

宗教ではない？

大都市で部屋を借りようとするといろいろと条件があるようです。会社としか賃貸契約を結ばないとか、女性にしか貸さない、動物を飼ってはいけない、お年寄りだけの所帯はお断り、などなど大変なようです。

そうした条件のひとつに、宗教をしている人は困るという大家さんがいると聞きました。

どういふことかという、いわゆる新興宗教団体に所属している人には入ってほしくないということのようでした。貸した部屋が集会や、行事に使われて多くの人が出入りして、ほかの住人に迷惑がられる。

曜日も時間も関係なく、読経の声や太鼓や鐘の音がする、変な臭いを出す、周りを気にせず自分たちの修行をすること、一所懸命、注意をしても知らん顔、ほかにも理由はいろいろありますが、招かれざる客となっているのです。そつした中、ある若者が部屋を借り

に行きました。大家さんと話していると、彼は尋ねたそうです。「あなたに

は部屋をお貸しして大丈夫そうだが、最後にひとつ確認しておきたいと思います。あなたは何か宗教を信じていますか？」そう聞かれた若者は答えました。「はい、私は佛教徒です。」すると大家さんはちよつと驚いて聞き返したそうです。「何宗ですか？」

若者いわく「浄土真宗です。」

「ああ、それなら安心だ。真宗は宗教じゃないからね。」

これは本当にあつた話です。

浄土真宗のご住職方が聞かれたら残念がられると思いますが、(浄土真宗)が(禅宗)や(浄土宗)であつたとしても、先の大家さんは同じ返事をされたことでしょう。

私はこの話を複雑な思いをして受け止めました。

例のサリンをまいた教団などは事件を起こす前から、教団支部がおかれた地域の住民とトラブルを起こしていたものです。

また、自分の信仰を熱心にすすめるあまり、度を超しているのではないかと考える宗教団体もあります。

それらに比べて(浄土真宗)や(禅宗)、(浄土宗)といった伝統佛教は人の迷惑になるようなことはせず、まだ

まだ信任されているものと思います。

しかし、人々から迷惑がられるほど熱心に集会に人が集まってくるものではなくなっている、そこまでの求心力を持つていないともいえるのではないだろうか？と自問自答したくなつたものでした。

宗教は人々の信仰の対象である教祖があり、その人のことばや修行によって多くの人々が情熱をもつて修行に励む、というイメージがあります。伝統佛教もその草創期には既成教団から迫害を受けるほど熱心な信者集団を持っていたものです。

大家さんが言つた「宗教ではない」ということは、伝統佛教が新興宗教のように活発ではなく、おとなしくて静かで安全なものというイメージで見られていたことを言つたものと思われるます。

現代のお寺は、それぞれが宗教法人となつていて、新興宗教と体裁はなんら変わらないものです。そのリーダーたる住職は、どうあつたらいいものでしょうか？

みずからが天地、自然、生物を生み、育んだ大いなるものに謙虚に感謝し、信じ神佛に身と心を任せける人間であらねばと反省するものであります。

幸せになりたい

私たちは、誰しも幸せを願わない者はいないと思います。その幸せとは？

「幸せは、春三月花のころ、お前十九でわしや二十、死なぬ子三人親孝行、使つてへらぬ金百両、死んでも命があるように」と元禄時代に歌われたそうです。また中国の故事には『人間万事塞翁』のように何が幸か不幸かわからないものです。

お釈迦さまが祇園精舎でお説教をなさつていた時のことです。ある都の城に四人の妻を持つて一人の男がいました。その第一夫人は、夫がもつとも愛する妻で、座つてゐる時も、立つてゐる時も、働いてゐる時も、休んでいる時も、一時も離したくないと思つてゐる妻でした。第二夫人は、大変な苦勞をして人と争つてまで得た妻で、常に側において言葉をかわしてはいるけれど、第一の妻ほどは愛してはいませんでした。第三夫人は、ときどき会つてなくさめ合い、気まを言い合つてゐる仲でした。第四夫人は、妻とは名ばかりで、ほとんどお手伝さんと変らない扱いで、すべての激しい労働をさせられ、夫の心のままに働きますが

「夫からはやさしい言葉一つかけられなく、夫の眼中にはほとんどありませんでした。」

こうした四人の妻を持っていましたが、ある時男は、遠い外国に旅立たなければならなくなりました。そこで、第一の妻に「一緒に遠い国まで行ってくれないか」と頼みます。すると第一夫人は、「私はいやです」、「どうしても、私は誰よりも一番お前を愛し可愛がって、お前の言うことは何でも聞いてあげ、どれほど骨を折ったかしれない。それなのになぜ……」。

「しかし、第一夫人には、「あなたがどんなに私を愛して下さっても、一緒に行くことはできません」と断られます。そこで、今度は第二の妻に頼みます。」

「お前は私と一緒にしてくれるだろうね」、「第一夫人が行かないのに何で一緒に行かなければならないのですか、私もいやです」、「そんなこと言わずに、私はお前を求めるのにさきん苦労して、飢えを忍び渴きに堪えてお前を手に入れたのだ、なのになぜ」、「それはあなたが勝手に無理に求めたことです、遠い国に行くのはいやです」

と、第二夫人にも断られます。こんどは、第三の妻に言います。すると第三夫人は、「私はあなたのご恩を受けて

おりますので、せめてお城の外まではお見送りします。けれども遠い外国までは御免こうむります」と断わられた男は、いよいよ因って第四の妻に最後の望みを託します。

「私は、お前のことはあまり大事にできなかったけど一緒に行ってくれないか」、すると「私は、あなたにお共えている身です。苦しくても、楽しくても、死のうが生きようが、お側を離れず、あなたの行かれる所にはどこへでも必ずお供をいたします」と、男はこうして日頃大事にしていた三人の妻をつれて行くことができず、心に染まらなかった第四の妻を連れて、遠い外国に旅立って行つたのです。

さて、このお話しに付いてお釈迦さまは、こうおっしゃいました。遠い外国とは、死の国のことで死出の旅ということです。そして、第一夫人とは、自分の肉体のことで、病気をしたら薬を飲み、怪我をしたら薬を塗って肉体をいとおしめ大事にしますが、死に際しては、付いてきてくれません。第二夫人とは、お金、財産です。どんなに苦労して貯めた財宝でも死ぬ時には持つてはいけません。第三夫人とは、父母や妻子や兄弟、親戚、友人、知人のことで、生きている時はお互い愛し愛され、思い忘れられたい仲であつて、死んだ時も泣き悲しんで、せめて城の外の墓場までは送ってはくれますが、しかし、そこまで、ハイさようならです。」野辺までは、情けのために送れども、苔の下まで添う者はなし」です。第四夫人とは、人間の心のことで、死出の旅には心が一番大切であるという教えです。

お釈迦さまは、私たちが幸せと求める、お金、地位、名誉、財産は死を迎えたらすべて離れていつてしまうものである。離れていくものは本当の幸せではない。本当の幸せは、死後の世界まで持つていけるものでなければならぬとお示しをされています。

悦びの中の悦び

法然上人は、幸せという言葉は使ってはいませんが、悦びの中の悦びという言葉で幸せを現わしていらつしやいます。何が悦びなのか、それは、「うけがたき人身をうけて、あひがたき本願にあって、おこしがたき道心を発して、はなれがたき輪廻の里をはなれて、生れがたき浄土に往生せん事、悦中の悦なり」とおっしゃいました。

「受けがたき人身を受けて」とは、法妖：上人は、「人身をうる事は、梵天より、糸をくだして、大海のそこなる針のあなを、とほさんがごとしといへり」と述べているごとく、受けがた

い 人の身を頂いていることを、まず心から感謝をして悦ぶことです。

「あひがたき本願にあって」ては、阿弥陀さまが、今だ仏さまにならせ給はざりし昔、法蔵菩薩と申すいにしえ、一切衆生を救わんがために、五劫思惟という長い長い間お考えになつて、世自在王如来という仏さまの前において、四十八願をおこしました。その中の第十八願に、「私が仏となつたなら、十方の国々に住むすべての人々が、心から信じて私の国に生まれたいと願い、十遍のお念仏を称えて、もしその世界に生まれることができないならば、私は仏にはなりません」という誓願を立てられ、非載永劫という五劫よりも長い長い間ご修行して、六度満行して、みごと阿弥陀如来という仏さまになられて、西方極楽浄土を建立して下さいました。これを念仏往生の本願といえます。その本願に、ありがたいことに今あわせて頂いているのです。

「おこしがたき道心をおこして」とは、起しにくい道を求め一離れがたき輪廻の里を離れて」とは、私たちは、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上の六道を輪廻転生しているのです。善導大師は、「億劫よりこのかた、常にぼつし常に流転して、出離の縁あることなし」とおっしゃっていますが、私



たちは、今人間界に生を受けているのですから、お念仏を称えて、この六道の迷いの世界を離れて、「浄土に往生せん事、悦びの中の悦びなり」です。お念仏を称えて、生まれようと思ってもなかなか生まれがたい西方極楽浄土に往きて生まれさせて頂くことは、あまたの喜びの中にも勝る大きな喜びなのです。

受けがたい人の身を受けたことを心から感謝をして、あいがたい本願にあいえたことを悦こんで、おこしがたい道心をおこして、お念仏を称える日暮しをして、この世の命終る時には、弥陀の浄土に往生させて頂くことが本当の幸せであり、悦びの中の悦びなのです。

泣きたいときに墓参り

かたりすと 平野啓子

問一髪で助かるということが

、仕事においても人間関係においても、ときたまあります。そんなとき、私は、二十年前にお世話になった亡き知人のお墓を訪ねます。もちろん、現世の私の周囲の人たちの力で助けられたことは明白なのですが、どこか、故人が守護霊のようになって、守ってくれている気がして。

お墓に向かつて、まず挨拶です。「お久しぶりです」。次に「まず、お墓をきれいにしますよ」と言ってお墓を隅々までびかびかに洗います。そして、「お花きれいでしょ」とその方の好きだったお花を供え、「さあ、お線香です」とお線香に火をつけます。こんな当たり前の段取りをいちいち声に出している自分は今、故人が目の前にいて話しかけている気持ちになっ

ています。

さて、準備が整うと、私はそつとしゃがみ、手を合わせます。でも、まだ目を閉じません。まず近況報告をするのです。「最近いろいろありましてね。大変だったんです、実は」と具体的に話します。周囲に誰もいないので、気兼ねなく何でも話せます。「こんなときどうしたらいいですか、教えてください」。その方に、何か答えてもらいたい気持ちでいっぱいになります。

そのうち、涙がとめどなくあふれてきます。この世にその人のいない悲しみだけでそうなるのではなく、今現在自分自身が抱えている苦しさ、辛さが、堰を切ったように涙となって流れ出るようなのです。もともと泣きたくてしょうがない状態だったのです。



お墓というところは、いくら泣いても、たとえ号泣しても何も不自然ではない場所ではありませんか。そんなお墓の包容力とでもいましょうか、誰かにすぎる代わりに、そこに思う存分甘えて泣くのです。まったく、「泣きたい時の墓だのみ」です。

ようやく涙が乾くと、お墓に故人の顔が映り、にこりと笑ってくれるような気がします。「今泣いたクラスがもう笑った」とからかうように。

私はそこで初めて心を落ち着けて、目を閉じ、故人の冥福を祈るのです。心からの感謝を込めて。時計を見ると、もう一時間も私はお墓の前にいたことに気がつきません。

伝えることば

毎日の外に一生はない。今日一日が大切だ。

火の車 造る大工はなけれども
己がつくりて 己が乗りゆく

私がしなけりや 誰がする
今しなければ いつできる

お炊き上げをします。

初盆の塔婆、名号幡をお寺にご持参
下さい。ご供養の上、浄梵（お炊き
上げ）を致します。

作ってみよう精進料理

【ふきの信田巻】

{浄土宗かるな} より



材 料 (4 個分)

薄揚げ 2 枚
ふき 1 束
三つ葉 1 束
(煮汁)
出汁 750cc
淡口しょうゆ 50cc
みりん 50cc
砂糖 適量

作り方

1. ふきに軽く塩をすりこみ、色よくゆで上げ、冷水につけ色止めをする。皮をむき、適当な大きさに切る。
2. 三つ葉はさっとゆでて、水にさらす。
3. 薄揚げは三方開きにし、湯の中で油抜きをして固く絞る。
4. (1) を (3) で巻き、(2) でしばる。
5. 鍋に出汁、淡口しょうゆ、みりん、砂糖を入れ、(4) を加えて煮る。
6. 食べやすい大きさに切り、器に盛る。

こころ豊かに生きる

ー感動と安らぎを求めてー

佛教文化講演会

久留米市佛教会では、第 32 回佛教文化講演会を行います。

内容は 違って一つになる生き方、宇宙の中の私、わかりやすい話しを聞いて頂き、ひとりでも多く真実の自己に目覚めてもらいたいと思います。

開催日時 10月29日(土) 14時～16時

場所 石橋文化センター共同ホール

入場 無料(入場整理券が必要)

問い合わせ 久留米市佛教会

電話番号 090-9476-5427

だるまさん

年間 5 回の法要(御忌、彼岸、施餓鬼、十夜)の法話、念佛講、14 日会等に参加された方に渡しています。

100 だるま以上集められた方には無条件で、お戒名に院号をお贈りします。お札に名前を書いて保管しておいて下さい。

御忌法要
2004年1月25日

香林山
無量寺



3

<http://muryoji.net>

念佛講
2003年7月25日

香林山
無量寺



2

<http://muryoji.net>

14 日会
2003年11月14日

香林山
無量寺



2

<http://muryoji.net>



使用済みのカードはありませんか？

使用済みのプリペイドカード(テレフォンカード、ハイウェイカードなど)がありましたら、お寺へ御持参下さい。国際協力事業団(JICA)を通じて、世界中の子供達の医薬品や医療器具などを購入するための資金を得る活動に役立てていただきます。

世界中のカード収集家に販売してその収益が当てられます。8 月末で 2050 枚お寄せ頂きました。

香林山 冷智院 無量寺

機関誌 こうりん

第 39 号 平成 17 年 9 月 1 日発行

〒 830-0044 福岡県久留米市本町 8-4

TEL 0942-32-3010 FAX0942-32-2701

郵便振替口座 01750-7-16114

URL <http://www.muryoji.net>

E-mail info@muryoji.net